

「JAバンクアグリサポート事業」の創設について

農林中央金庫農林部

農林中央金庫とJAバンクは、「JAバンクアグリサポート事業」という新たな事業の創設を決定し、具体的事業の検討を進めていくこととしました。事業規模はおおむね3ヵ年で100億円程度と想定し組織協議などを経て、今夏以降順次具体的な事業を公表、開始していきます。

1. 事業創設の趣旨

農政の転換などを受けて農業をめぐる環境が激変し、農業経営の大規模化・安定化へ向けた経営課題や、耕作放棄地の増大、地域の過疎化・高齢化の問題など、様々な課題がクローズアップされています。JAではその社会的要請、すなわち、施策の対象とされる担い手の育成はもちろんのこと、これに加え施策の対象からはずれる農家・組合員への対応や、地域社会への貢献、に応えるため、これまで以上に農業・地域社会の担い手の育成・確保策や、環境保全の取組みなどに力を入れてきているところです。

こうした状況の中、JAバンクとしても組合員経営・農業・農村等地域社会の課題解決・成長のためのサポートを行う事業を創設することで第一次産業振興を目的とした協同組織金融機関としての社会的な責任を果たしていこうというものです。

2. 検討している事業の内容

農政転換のスタート台に立つ全国の担い手への応援、農業分野における新たなチャレンジや課題解決を支援するための取組みとして、以下の内容で現在検討を行っております。

(1) 名称

JAバンクアグリサポート事業

(2) 事業内容

- ① 農業担い手に対する支援
- ② 農業および地域社会に貢献する取組みなどに対する支援
- ③ 消費者などの農業への理解・関心を高める取組み

という3つの切り口から、農業振興に貢献する事業を展開して参ります。

現在、具体的に検討している事業は、農産物輸出・バイオマス事業を含む新規事業への参入や展開等をバックアップするエンジェルファンドの創設や、担い手等への金融サポートの強化策、産地と消費地を結ぶ取組みへの支援などです。

(3) 事業費

農林中央金庫では平成21年までの3か年におよそ100億円規模の拠出を想定しています。

(4) 実施主体

JA、信連、農林中央金庫がJAバンクグループとして取組むものであることも勘案し、新たな法人の設立も含め検討、協議を行っていきます。